

2023年2月24日

海底設置型フラップゲート式可動防波堤で「大阪優秀発明大賞」を受賞

津波や高潮対策用の水門として新たな形式となる海底設置型フラップゲート式可動防波堤の発明者である当社職員4名が、一般社団法人大阪発明協会（大阪市、辻村 英雄会長、以下、大阪発明協会）の令和4年度大阪優秀発明表彰において「大阪優秀発明大賞」を受賞しました。



当社発明者／後列中央：仲保 京一氏、後列右から2番目：新里 英幸氏、後列右端：木村 雄一郎氏
(1名欠席：森井 俊明氏)

大阪優秀発明表彰は、大阪発明協会が主催し、大阪府において優れた発明を完成し、わが国の科学技術の発展に大きな足跡を残した発明者の功績を表彰するものです。

今回の大賞受賞は、海底設置型フラップゲートにおいて、風波浪によって海底に倒伏している扉体に作用する流体力による係留ロープ張力を軽減すると共に、扉体の係合状態および係留ロープ伸びを海面上で目視確認し、係留ロープを切断することなく着脱可能な扉体の係合機構の特許発明※ならびに岩手県と兵庫県において採用された2基の実績が高く評価されたものです。

※特許第5074367号「起伏ゲート式防波堤の扉体系留装置」

なお、海底設置型フラップゲート式可動防波堤の主な特長は次のとおりです。

1. 平常時は海底に倒伏しているため、船舶航行・海水交換を阻害せず、周辺景観への影響が僅少。
2. 自然の力を有効利用した構造・機構の採用により、安価な防御施設を実現。
3. 扉体浮力などの常時監視により施設状態を見える化し、安心な防御施設を実現。

(設置イメージ：従来のローラゲート式)



(設置イメージ：海底設置型フラップゲート式)



当社は、今回の受賞を本発明製品のより一層の普及につなげ、持続可能な防災・減災社会の構築、さらには SDG s（持続可能な開発目標）達成に貢献していきます。

(終)

(ご参考：海底設置型フラップゲート式可動防波堤について)

<https://www.hitachizosen.co.jp/business/field/infrastructure/movable-seawall.html>